

生物多様性 くまもとCだより

第4号!
(H30梅雨)

平成30年6月30日発行
発行元: 熊本市環境局
環境推進部 環境共生課
TEL: 096-328-2352



熊本市は平成28年3月、「熊本市生物多様性戦略～いきもんつながるくまもとCプラン～」(Cプラン)を策定しました。

これは、私たちのまちや暮らしを自然と寄り添いながら、魅力的にしていけるための計画です。ただ、「そもそも生物多様性ってなに？」…基礎的なことから最近の話題までをお知らせする『生物多様性くまもとCだより』、第4号をお届けします！

熊本市の生物多様性のために頑張っている人々をつなぎ、情報を発信する取組『いきもんネット』がはじまりました！！

「いきもんネット」とは、「くまもとCひと・まち・いきもんネットワーク」の略称で、熊本市の生物多様性に関わる活動や研究をしている人たちが連携し、また情報発信をするためのネットワークとして、熊本市が新たに取り組みはじめました。

生物多様性に関わる活動や研究をしている人たちは、市民活動団体や事業者、学生など立場は様々ですが、単に「生きもの」、「自然」に普段から接しているだけでなく、「生きもの」、「自然」が織り出す魅力やめぐみなどを理解し、それらを活かした素晴らしい活動をされています。

一方で、それらの活動は他の人たちと共有されることはあまりなく、また外部に情報発信されずに完結してしまっている状況を度々目にします。

そこで、熊本市の生物多様性に関わる取組をしている市民活動団体や事業者、学校、行政機関などが情報を共有して、お互いに連携・協働し、活動等の情報を発信するための新たな取組として、「いきもんネット」を創設しました。



「いきもんネット」に登録をすると、熊本市のホームページや熊本市が主催する生物多様性に関するイベントで、活動・研究内容を紹介したり、登録者を対象とした野外活動やシンポジウム（ポスターセッションやグループワーク等）に参加することができます。

これら「いきもんネット」の取組を通じて、熊本市の生物多様性のために頑張っている方々の活動・研究が盛り上がることで、熊本市の生きもの、自然の更なる魅力やめぐみの発掘や持続可能な利用に繋がり、それが豊かな暮らしやまちづくりに寄与することを期待しています。

○「いきもんネット」への登録の方法など くわしくは、環境共生課(096-328-2352)まで！

『いきもんネット』の詳細は、熊本市ホームページでもご覧いただけます⇒⇒



熊本市には水田(約5,600ha)があり、多種多様な農業が営まれています。

田んぼや農村は、農業生産の場の他に四季折々の景観の提供や一年を通して様々な生きものが生息する生物多様性に満ちた空間となっています。しかし、農家の努力だけでは水路等の水辺環境を維持管理するのは困難になっています。

当地域(水田約1,500ha)では、地域住民、学校関係、事業所やNPO等が参画した環境保全隊(8,400名)を立ち上げ、「地域環境は自分達で守ろう」を合言葉に、農業組織や集落と連携し、水路の清掃、酸欠魚の救出、竹炭による水浄化、外来水草・タニシの除去等を実施しています。また、生息環境の保全、防火用水や水質浄化のために、年中環境用水を流すよう水管理を行っています。



↑地域住民による外来水草の除去作業



↑田植え体験の様子

6月24日(日)に、熊本市動植物園のニホンザル舎となりの田んぼでイベント「動物園に田んぼを作ろう」が開催されました。この田んぼは、動植物園のニホンザルの先祖がくらしていた球磨郡相良村の環境を模しており、田植えや稲刈りといった文化を来園者に伝える目的で作られたものです。当日は永井さんに講師として、田んぼの生きものや生物多様性、保全の取組に関するお話をいただいたのち、子どもたちによる田植えが行われました。秋には稲刈りを行い、お米を収穫する予定です！



↑水路の生き物調査

共同活動の輪が広がり、ビオトープ(7か所)によるホテルの復活作戦、全小中学校(7校)で生き物調査・発表会の開催、水源かん養林(4か所)の育樹も取り組んでいます。

持続的な農業の営みと人が手入れをすることで、美しい田園が保たれ、豊かな生態系が維持できます。米を食べることが生物多様性保全に役立ちます。

全住民の3割強の参加率ですが、活動を通じて自然環境に関心を持ち、親しみ、地域(人)のネットワークも構築されています。地震災害時においても相互扶助機能が発揮されました。

今後も、熊本市(農村)で活動する28組織の仲間と連携して共同活動を展開して行きます。

いきもんネットに登録すると・・・(※写真はイメージです)

★市ホームページや市が実施する生物多様性関係のイベント等で、活動・研究内容を紹介します。



★登録者同士の情報共有、交流の場に参加できます。



開催報告 いきものフェアくまもと2018 ～来て見て実感！身近な生物多様性～

昨年開催した「探検！いきものワンダーランド☆～あいことばは生物多様性～」に引き続き、今年も国連生物多様性の日(5/22)にあわせて、5月12日(土)・13日(日)に熊本市動植物園で、生物多様性啓発イベント「いきものフェア2018～来て見て実感！身近な生物多様性～」を開催しました。

今回も、生物多様性や身近な外来種に関する展示のほか、園内でのいきもの観察会(動植物・水生生物)、外来魚の解剖やモグラのおうち(生息環境)作りのワークショップ、カブトムシ・クワガタムシ講座、生物多様性クイズラリー、動植物園スタッフによる動物ガイド、熊本市内の団体・学校の取組紹介、生物多様性に関する絵本コーナーなど、身近ないきものをおして楽しみながら生物多様性について学べる展示や参加・体験型のプログラムを行いました。参加者の方からは、「生物多様性について考える機会になった」「親子で楽しめた」「子どもが楽しく虫や外来種について学べた」といった感想をいただきました。このイベントが、みなさんが生物多様性について考えたり、守るための行動のきっかけになればと思います。



↑「水生生物ウォッチング」



↑「注目!!身近な外来種展」

『農村地域における活動～自分たちができる身近な活動～』
天明環境保全隊 永井 幸人

「生物多様性」って何なんだ!?

「生物多様性を守るために」編①
～熊本市の生物多様性『いまの姿』～

「生物多様性」って何だろう?
生きものがたくさんいること??
—いやいや、それだけじゃない、
ふか～～～～い世界が…

これまでに、私たちが生物多様性から受けている様々なめぐみ「生態系サービス」、そして今世界的に、また日本で起きている「生物多様性の危機」について解説しました。私たちの暮らしを支えている「生物多様性」を守るために、わたしたちができることを考えるうえで、まずは熊本市の生物多様性の『いまの姿』に注目してみましょう。豊かな自然や生物多様性に恵まれている一方で、解決すべき課題も少なからず見えてきました…。

◇熊本市の生物多様性『いまの姿』

下のイラストは、熊本市の生物多様性の『いまの姿』を描いたものです。登場する自然や生きものたちは、みなさんにとっても、なじみ深いものではないでしょうか。熊本市の森の拠点となっている金峰山系や立田山、雁回山、地下水都市熊本を象徴ともいえる江津湖、それぞれの環境には多くの生きものがすんでおり、生態系がつくられています。阿蘇山から有明海まで、森・里・海といったそれぞれの生態系が緑川・白川などの河川によってつながり、豊富な地下水や多様な農産物、海産物など、生物多様性の様々なめぐみをもたらされています。

その一方で、市街地の拡大や道路の建設等に伴う森林や農地の開発、水路のコンクリート化、土壌・水質汚染、外来魚や外来植物の増加・繁茂といった、生きものの生育地・生育地の減少や環境の悪化といった問題が起きています。また、管理されていない竹林や耕作放棄地の増加や、生息域を拡大したイノシシによる農業被害といった問題も起きています。外来種のアライグマについては、近年県内で生息確認が相次いでおり、今後農業や生態系へ与える影響が心配されます。

◇解決すべき課題

先に挙げた、生きものの生育地・生育地についての課題を解決していくためには、現在ある環境を「守る」という視点と、失われてしまった環境やつながりを新たに「創る」という視点での取組が必要です。そのほか、生物多様性の意味、重要性、日常生活とのかかわりといったことが広く認識されていないことや、生物多様性に関する取組を行っている各主体の連携不足などといった課題もあります。また、単に“保全する”という視点だけではなく、優れた自然環境や地域の景観、伝統野菜や郷土料理など、生物多様性に関する地域資源の魅力を情報発信や、文化・観光などの産業と一体となった利活用の不足も課題として挙げられます。

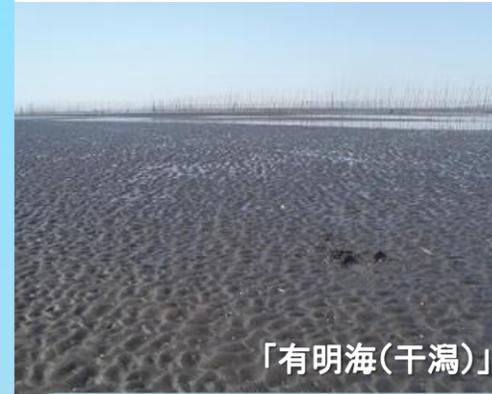
このような課題を解決し、魅力的な自然環境や多様な生きものたち、熊本市らしい伝統・文化や生物多様性のめぐみを将来の世代に引き継いでいくためにも、わたしたち一人ひとりが、熊本市の生物多様性について考え、観察し、知り、行動していくことが大切です。

★次回は、「生物多様性を守るために」編②
～私たち一人ひとりができること～」です。



みんなで未来に残したい熊本市の自然環境

④



「有明海(干潟)」

熊本市の沿岸には、広大な干潟が形成されています。干潟は、干潮時に現れる泥から礫(れき)の海底で、アサリやハマグリ、ノリといった海産物の生産場所として重要な価値があります。またシオマネキなどのカニ類、ゴカイ類などの底生生物やムツゴロウ、ワラスボなどの魚類、シギ・チドリ類やカモ類といった鳥類など、多くの生きものにとって重要な生息地となっており、多様な生物が生息することで優れた水質浄化機能を有しています。しかし近年は、アサリやハマグリ漁獲量の減少や干潟の開発、外来種の侵入・繁茂が課題となっています。水産資源を持続的に利用していくためにも、干潟の生物多様性を保全することが大切です。

取組紹介 干潟体験学習(奥古閑小学校・海路口漁協)

奥古閑小学校(熊本市南区)では、身近な自然環境の学習として、海路口漁業協同組合の協力のもと、毎年干潟体験が行われています。

今年も6年生27名が緑川河口に集合。はじめに市水産振興センター職員による干潟の浄化作用や水循環などの説明を聞いたのち、ガタ(ぬかるみ)に足を取られないよう一列になって干潟を歩きました。体験場所に到着すると、熊手やスコップを手に生きもの探しを開始。しばらくすると、あちらこちらで歓声が上がります。「おれエビ見つけたばい!!」「うわ、今魚がおったー!」「先生、この貝何ですかー?食べれますかー?」。全身、顔まで泥だらけになって干潟を満喫しながらも、「穴がほげてるところはエイが貝ば食ったあとだけんね」「水は海につながってるけんね、ゴミをその辺に捨てたりしたら海も汚れてしまうからね」といった、漁師さんやセンター職員からの干潟の生きものつながりや環境を守る大切さの話についても、みんなしっかりと耳を傾けていました。



↑干潟体験当日(6/12)の様子

くまもといきもんノート

～4. 田んぼの雑草は絶滅危惧種!?!～



↑【イボクサ】ピンク色の可愛い花



↑【ミゾカクシ】片側に偏ったような形の花

田んぼにはため池や湿地などを好む多様な生きものが暮らしており、陸上とは少し異なる自然環境が広がっています。人々からは『雑草』と呼ばれている田んぼの植物に目を向けてみると、可愛い花をつけていたり、面白い形をしていたりするものもたくさんあり、意外な楽しみや発見に出会えることがあります。

しかし、近年では土地開発や除草剤などの影響を受けて生育できる環境が減少し、かつては普通に見られていた草花でさえも、今や絶滅する可能性が高い種になっているものも少なくありません。

田んぼで見られる植物は江津湖周辺をはじめ、用水路の近くなどでも見られます。貴重な植物の大切な生育地は、実は皆さんの身近な環境の中にあるのです。いつもは『雑草』として見過ごしてしまう草花も、ぜひじっくりと観察してみてください。

(文・写真) 熊本博物館 学芸員 山口 瑞貴

～編集後記～ 今回のC日よりでは、「田んぼ」と「干潟」にスポットを当て、そこに暮らす生きものや、行われている取組について紹介しました。今は梅雨から夏特有の蒸し暑さもありますが、この時期ならではの田園風景や、生きものたちの気配を感じる楽しさもあります。これからくまもとの生物多様性について、どんどん発信していきます!(環境共生課)



くまもといきもんノート

『熊本市生物多様性戦略』(本編・概要版)は、熊本市ホームページからダウンロードで入手可能です。ぜひ一読ください!

